

東日本大震災による 法人内施設・各事業所の被災状況について

平成23年3月11日午後2時46分、東日本太平洋沖にて国内最大となるM9.0の大地震が起き、それに伴う大津波で福島県を始めとして岩手県・宮城県・茨城県・千葉県等で甚大な被害をもたらしました。今回の大震災で亡くなられた方が1万人を超え、行方不明者の方も未だに数千人以上いらっしゃいます。

震災によって亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り致します。また、被災された方々に対してもお見舞い申し上げます。

福島県内においては、東京電力福島第一原子力発電所の放射能問題がまだ予断を許さない状態であり、その影響は今では全国各地に広がっています。

今回の東日本大震災における当法人の各施設・各事業所の被害状況・現在の状況について御報告致します。下記の内容は、4月1日現在のものです。

<救護施設 やしおみ荘>

震災当日、利用者・職員は普段通りの日課を施設内にて過ごしており、あまりの大きな揺れの為、緊急で一時前庭に避難し、全員の無事を確認しました。施設内の安全性が確認できない為、当施設の体育館に全員避難し、約1週間食事・睡眠等を含めた生活を体育館内で過ごしました。施設内の安全性が確認され、利用者も自分の居室にて生活できると安心していた頃、東京電力福島第一原子力発電所の放射能の問題が発生しました。当施設は現場から50km以上離れており、屋内退避区域には指定されていませんが、利用者の健康面に配慮し、施設内の窓は閉め切り、洗濯物を外に干す事も出来ず、屋内に干す状態でした。

ライフラインについても、大地震の為、電気とガスが止まってしまいました。水道水は影響を受けず、現在まで止水する事は無く、電気も震災当日の夜に復旧しましたが、ガスについては余震も続いていた為、なかなか復旧せず、暖をとる事が難しく、利用者の中には低体温症状が出てくる方もいました。

食事も支援物資が届くまでは、困窮した状態であり、備蓄していた食糧や同法人の虹のかけはしのパン、しおさいのうどんの協力を得て、何とか一日3食を利用者に食べて頂く事が出来ました。

利用者もこの大震災の被害の大きさをテレビやラジオなどで目の当たりにし、現在の状況を理解し、先がなかなか見えない不安の中でも、職員と共にこの困難を乗り越えようと協力し、支え合っています。

放射能問題の影響による風評被害で、一時は食糧を始め、燃料の供給も滞り、職員の通勤にも影響が出始め、1台の車に乗り合わせてきたり、職場近くの同僚の家に泊まったりと、体力的にも精神的にも落ち込んでしまった時がありました。しかし、地域の方を始め、全国各地からの温かい支援物資が届き始め、今まで関わりの無かった企業・個人の方からも温かい支援の声や必要な物を確認するお電話をたくさん頂きました。

現在はガスも復旧し、入浴も出来ておりますが、東京電力福島第一原子力発電所の経過が不透明な現状の為、当施設では緊急の場合に備え、市外・県外の施設への避難を検討しています。

少しずつではありますが、震災以前の様に利用者にも笑顔が見られてきました。先々の事が見えない中で、地域の方々を始め、多くの方々の温かい支援に支えられています。その支えがあるからこそ、私達も様々な不安がある中でも頑張る事ができ、少しずつ前に進む事が出来ています。これから多くの困難があるかと思いますが、皆で協力し合い、頑張ってお参ります。

<知的障害者更生施設 ふじみ更生園>

東北地方太平洋沖沿岸部を中心とする未曾有の大震災の犠牲になられた方々のご冥福を心よりお祈りいたしますとともに、被災された方々の心身共々のご健康を心よりお祈り申し上げます。

当施設では、幸いにも人的被害は無く、建物も園内の壁に小さな亀裂が入る程度で、大きな被害はありませんでした。

ライフラインに関しては、地震発生直後より、停電・断水に見舞われましたが、深夜には電気・水道共に復旧しました。ガスの使用は可能でしたが、補充の目途が立たず、暖房の使用を控え、調理の際の使用時間を1日2時間と制限しました。その他入浴や暖房に関しては、燃料不足や余震の恐れもあり、入浴は週に1回、それ以外の日は清拭を実施しました。4月1日現在、燃料等の供給が安定してきたため、徐々に通常の生活に戻りつつあります。

震災の影響で、食料等の仕入れ先が操業中止状態となり、食材確保が困難となりましたが、いわき市・福島県知的障害施設協会・日本知的障害者福祉協会・福島県社会福祉協議会・救護関係・その他関係諸団体を通して、全国より食糧・飲料水・毛布・おむつ・衣類・日用品等たくさんの援助をいただきました。また、何より地域の方々の協力もあり、生活を維持することができました。

しかし、ガソリン不足によって職員の通勤に支障をきたし、また自宅が津波の被害によって生活困難となり、施設内の自活訓練棟や同僚宅で生活する職員もおりました。

東京電力福島第一原子力発電所の事故に関して、当施設は第一原発から約50キロに位置しており、危険区域とはなっておりませんが、避難指示が出された場合を考え、